

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>あたたかな家庭の延長としての暮らしと地域とのふれあいを大切にする理念をつくりあげている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念を目にふれるところに提示し、常に振り返るよう心がけている。ケア会議で話題にして実践に取り組んでいる。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ご家族には訪問時にお伝えしている。運営推進会議の資料として添付し、説明して理解を求めている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>園庭において定期的にゲートボールやグランドゴルフが行われており、地域の方が来られるので、応援に行ったり訪問されたりとの交流がある。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の六月灯や二日市などに積極的に出かけ、交流をはかっている。文化祭への出展も始めた。中学生の職場体験学習の受け入れ、学童保育所との交流が軌道にのりつつある。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居の申込みのための訪問者が多いので、ゆっくり時間をさいて話を聞き、現時点で最も良い方法を探るお手伝いをしていく。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員で自己評価および外部評価に取り組むことにより、自分のケアを振り返り、問題点を見つけることができた。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にはいつも幅広い立場の方々が参加され、リラックスした雰囲気の中で様々な話題が出される。その中から意見を汲み取り、サービス向上に生かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の福祉課の窓口を折りに触れて訪問し、質問や相談を行っている。福祉課の担当者も気軽にグループホームを訪問し、アドバイスして下さる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	全員で制度に関する研修を行っている。現在必要な入居者はいないが、いつでも活用できるよう常に意識しておきたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全員で研修を行っている。知らずに行っている虐待がないかケア会議において常に話題にして確認し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前に本人及び家族と十分な面談の時間をとり、信頼関係を築いた上で契約するよう努めている。疑問や不満にはいつでも応じることを説明している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者から出された苦情等は引継ぎ時や申し送りノート等で情報を共有し、できるだけ速やかに対応している。利用者が訪問者と面談したときは、利用者から聞き取った不満などをさりげなく尋ねている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用料の支払や受診の付き添いなど家族がホームを訪問する機会が多いので、その都度ゆっくり報告している。金銭管理は月ごとの報告書をお渡しして確認をもらっている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議にはいつもほとんどの家族が出席され、家族同士の情報交換、行政や施設の苦情窓口との意見交換の場となっている。出された意見はケア会議に反映させている。支払や受診付き添いで来られた際も、要望の聞き取りに努めている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日常の申し送りやケア会議において活発な意見が出されている。非公式の場でも、適切な意見は迅速に運営に反映させ、情報を共有している。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>フリー勤務や半日勤務を必要に応じて柔軟に配置できる体制をとっている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職を最小限におさえられるような職場環境の実現に努めている。過去の異動の際は前もって個別にゆっくりと説明し、お別れ会をしてダメージを少なくするよう努力した。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には積極的に職員が参加するよう努めている。また、全員参加の職場研修を年に数回行っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区グループホーム連絡協議会主催の研修に参加し、同業者との交流や相談を行っている。また、同市内のグループホームを訪問し、運営やケアにかんするアドバイスをもらっている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	おおむね4週8休を維持し、有給休暇を取得しやすい職場環境であり、家庭や趣味活動と両立しやすい。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は頻繁に現場を訪れ、職員や利用者と同様に面談して職場環境の把握に努めている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	デイサービスやショートステイの機会を利用したり、家庭や入院先を訪問したりして利用前に面談し、本人の話を聞く機会を作っている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前に何度でもホームに来ていただき、じっくりと話を伺っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の申込や相談を受けた場合はじっくりと話を聞き、他のサービスも紹介して必要に応じてケアマネージャーや居宅介護支援と連携している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にデイサービスやショートステイ先と連携して何度かホームに遊びにてもらい、ホームになじんでもらった。急な入居になったときは、家族に本人が安心するまでなるべく頻りに面会に来てくれるようお願いした。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	夕食の後、職員と入居者が一緒にお茶を飲みながら、思い出話をしたり歌を歌ったりゆっくり過ごす時間を設けている。その中で一人ひとりの人生に思いをはせ、尊敬の念を抱くことが多い。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用料の支払時や受診付き添いの送迎時に職員が必ず家族に入居者の様子を伝え、家族の要望や思いを聞き取るよう努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との会話の端々から家族の歴史を理解するよう努め、家族の負担に配慮しながら役割を担ってもらっている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の希望に応じて美容院や買い物に行けるよう支援している。知人の訪問はいつでも歓迎し、ゆっくり過ごせるよう配慮している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の係わり合いに気を配り、職員が間に入ることで人間関係がスムーズになるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	法人内の特養へ移られた方と機会をとらえて接触している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室でゆっくり話を聞くなど日々のかかわりを通して思いを汲み取り、ケア会議等で情報の共有と検討に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や家族の訪問時の聞き取り、何気ない雑談などから情報を汲み取り共有している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の過ごし方をケース記録に記載し、把握しにくい点は項目別に記録することで、利用者一人ひとりの状態を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族との日常的なかかわりの中から課題を見つけ、介護計画に反映させるよう努めている。また、ケア会議における職員の意見を反映させ、全員でモニタリングを行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	認定更新のさいは必ず見直しを行うとともに、状況が変化した場合には計画変更を行っている。	○	迅速な計画見直しの体制がまだ整っていないため、今後モニタリングを計画見直しにつなげるシステムを作りたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、健康状態や食事、一日の活動を記録し、全員が目を通すことでじょうほうを共有している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、受診付き添い、美容院、買い物代行など柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議に民生委員の出席を依頼したり、消防署の出席を以来したりして連携を模索している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護保険以外のサービスの利用にはまだ至っていないが、必要に応じて検討していきたい。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入退所にかかわる相談など地域包括支援センターと協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医に引き続き受診できるよう支援している。基本的に受診の付き添いは家族対応であるが、受診の際はホームより情報提供を行い、必要に応じて受診に動行している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者かかりつけの専門病院と連絡を取り合い、必要に応じて職員が受診に同行して相談している。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションの定期訪問により、日常の健康管理や相談を行っている。訪問看護師は入居者、職員との信頼関係ができており、気軽に何でも相談できる。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院後1週間程度をめどに家族、病院、グループホームの3者で病状と退院見通しについて協議し、早期退院にむけた支援をおこなっている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に対応する指針を作成し、必要に応じて医療機関や訪問看護ステーションと協働している。	○	終末期まではなかなか協議を煮詰められない雰囲気がある。かかりつけ医で緊急往診の体制がとれない医療機関もあり、難しい面が多い。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合の支援体制について、医療機関や訪問看護ステーションと話し合っている。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られた場合はできるだけの情報提供を行い、スムーズな住み替えを支援している。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人のプライドを傷つけるような対応をしていないか、常にケア会議等で確認しあっている。記録等は入居者や第三者の目に触れないように管理されている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	できるだけ本人の意思が表出できるように、職員がゆっくりと入居者と接することができるような体制を作っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは作っているが、できるだけ時間を区切らず、入居者のペースに合わせるよう努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人が好きな服装ができるよう支援している。好みの美容院へ行けるよう連絡を取り合って支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に入居者の好みを取り入れるよう努め、準備、片付けは基本的に入居者と一緒におこなっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者の好きなお菓子を一緒に買いに行ったり、好きなおやつと一緒に手作りしたりして楽しんでいる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	必要な入居者には、排泄チェック表を作り、パターンを把握してトイレ誘導を行っている。習慣を生かしたトイレ誘導で、失禁を防ぐよう努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的に1日おきであるが、できるだけ本人の希望に併せるよう努めている。お一人ずつ入浴介助し、職員との会話を楽しみながらゆっくり入浴されている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中はできるだけ活動されるようにし、就寝時には本やラジオなど好みのものを居室に持っていきもらい、ゆっくりと寝られるよう援助している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	縫い物の得意な入居者が中心になって日用品を手作りしてもらったり、花壇や菜園を作って収穫したりして楽しんでいる。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や能力に応じて、お金を手元に所持してもらっている。事業所でお金を預かっている場合でも、行事や外出の際は自分で買い物し支払するよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望にできるだけ応じるよう努めている。行事等と組み合わせて外出の機会を増やし、天気の良い日にはなるべく外の空気を吸うよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者の希望を聞きながら遠足やドライブの計画をたて、行き帰りに入居者の自宅やなじみの場所を回るなどしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人に気軽に電話できるよう支援している。話が通じにくい場合や家族の精神的な負担が感じられる場合は、職員が間に入ってフォローするよう努めている。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を設けず、いつでも面会に来られるよう家族にお話している。来られた際は居室やホールでお茶をお出しして、ゆっくり過ごされるよう声かけしている。	
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全員で権利擁護や身体拘束に関する研修を行っている。知らずに行っている身体拘束がないかケア会議の場で振り返っている。	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊や転倒の危険性、感染症対策などの関連で、玄関の鍵はかけていることが多い。安全と思われる時はセンサーで対応している。ベランダは目が届くので、自由に入出入りしてもらっている。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は日勤者が責任をもって入居者の様子を見守っている。夜間は時間を決めて巡視するほか、必要に応じて離床センサーを使用するなど、安全に配慮している。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	縫い物や編み物、包丁を使った調理も希望に応じていただいている。使用後の道具は職員が安全に収納している。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	きめ細かい様子観察を行い、ヒヤリハットを記録して情報を共有している。そこからすばやい事故防止対策につなげている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応のマニュアルを作成し、全員が消防署の救急救命訓練を受講して緊急事態に備えている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の法人合同の避難訓練に参加するほか、グループホーム独自の避難訓練を実施し、常に避難経路を確認して災害に備えている。法人全体で地域の協力を得る体制がとられている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居の際、重要事項説明書において生活上のリスクについて家族に説明している。予測し得る危険性については家族との面談及び運営推進会議等で常にとりあげ、理解を得るよう努めている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝健康観察とバイタルチェックを行い、異常が認められれば直ちに家族と医療機関に連絡して迅速な受診につなげている。また、申し送りノートに記載し、情報を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を個別記録の中にファイルして全職員が把握しやすいよう工夫している。服薬の変更はバイタルチェック表に記録し、状態変化を確実に記録している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便の記録と水分の摂取量のチェックをつねに行い、繊維質の豊富な食事やおやつにより自然な排便を促している。便秘が続く場合は医療機関と連携して適切な処置や服薬により早期の解消を支援している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人ひとりの状況に合わせて口腔ケアの声かけ及び介助を行っている。就寝前は義歯の洗浄および消毒の援助を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事及び水分の摂取量を記録し、栄養摂取状態を把握している。管理栄養士の講習を全員が受講し、献立記録をチェックしてもらって、アドバイスをもらっている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアルをつくっており、全職員が研修を行っている。グループホーム内外でアルコールおよび次亜塩素酸による消毒を家族や入居者の協力を得ながら行っている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は契約した小売店よりこまめに配達してもらい、新鮮な食材が供給されている。調理器具や布巾はアルコール及び漂白剤で消毒している。	
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>			
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に花壇を作り、内部には季節感を感じる飾りをつくって親しみやすい空間を作っている。ゆっくり出入りできるように玄関にベンチを設置している。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや和室に季節を感じる飾り付けをし、自然の光を取り入れて心地よい空間を作っている。どこからでも調理場を見ることができ、一緒に調理しながら和やかに過ごせる。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール、台所、和室、ベランダ、玄関にゆっくり座るための椅子やベンチが設置しており、入居者は思い思いの場所でゆっくりと過ごすことができる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者はめいめいに好みの家具や写真を飾って居心地よく部屋を作っている。好みに応じて畳や和風ベッドを置くなどして支援している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝必ず居室の換気を行っている。温湿時計や加湿器も設置し、こまめに調節を行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路や浴室に手すりを設置し、出入り口の設備を改善するなど、常に見直しと工夫を重ねている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の状態に合わせた解りやすい居室の配置をし、ホールの座り位置もわかりやすい位置にして混乱を防いでいる。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	個室ごとにベランダが設置され、自由に利用できる。ホール前のベランダにはベンチを設置し、ゆっくりと過ごせる。外回りには広い芝生と菜園、花壇があり、楽しみの場となっている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
	<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/>	③たまにある
	<input type="radio"/>	④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が
			②家族の2/3くらいが
			③家族の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ゆとりのある明るい生活を支援していきます。笑顔の絶えないグループホームです。